

(品目別需給編)

1 小麦

(1)国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2018/19年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・前月に比べ、豪州等で上方修正もカザフスタン等で下方修正された。

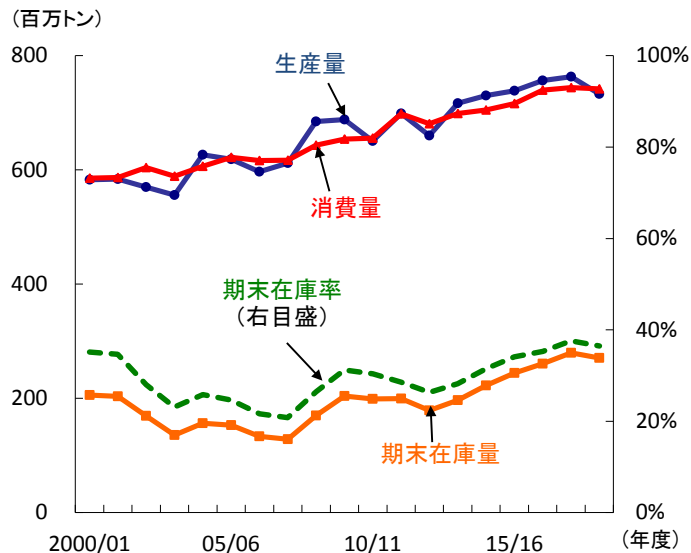
消費量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・前月に比べ、豪州等で上方修正もインド等で下方修正された。

輸出量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

・前月に比べ、米国等で下方修正も EU 等で上方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」（2019.3.8）をもとに農林水産省で作成。

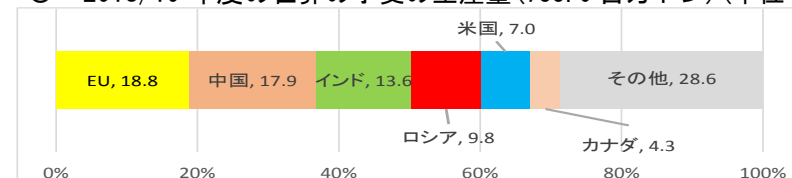
◎世界の小麦需給

(単位:百万トン)

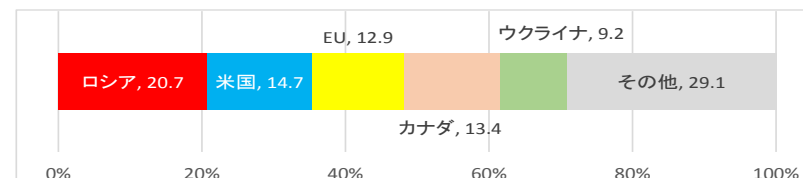
年度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	756.4	763.1	733.0	▲ 1.8	▲ 3.9
消費量	739.8	744.4	742.1	▲ 5.1	▲ 0.3
うち飼料用	147.6	147.9	142.1	▲ 1.1	▲ 3.9
輸出量	183.4	181.2	178.9	0.2	▲ 1.3
輸入量	178.9	179.1	176.5	0.3	▲ 1.5
期末在庫量	261.0	279.6	270.5	3.0	▲ 3.2
期末在庫率	35.3%	37.6%	36.5%	0.7	▲ 1.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、「PS&D」(8 March 2019)

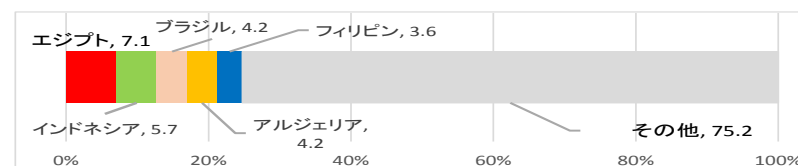
○ 2018/19年度の世界の小麦の生産量(733.0百万トン)(単位:%)



○ 2018/19年度の世界の小麦の輸出量(178.9百万トン)



○ 2018/19年度の世界の小麦の輸入量(176.5百万トン)



(2) 国別の小麦の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】2018/19年度の生産量は、米国農務省(USDA)によれば、前月からの改訂はなく、51.3百万トンの見込み。

2019/20年度の冬小麦主要産地別作況(良からやや良の割合、3月24日時点)は、前週に比べ、カンザス州で2ポイント改善し52ポイント、オクラホマ州は14ポイント改善し74ポイント、テキサス州は6ポイント改善し39ポイントとなった。

また、例年4月半ばから作付開始となる春小麦の作付けは、主産地のノースダコタ州等では積雪により土壌温度が低いこと等から遅延が懸念されている。

【貿易情報・その他】2018/19年度の消費量は、前月より0.1百万トン下方修正され30.2百万トンの見込み。小麦から小麦粉への歩留まり向上により食用消費量が下方修正された。

2018/19年度の輸出量は、黒海沿岸諸国、EU、カナダの輸出攻勢から前月より1.0百万トン下方修正され26.3百万トンの見込み。

< ロシア >

【生育・生産状況】2018/19年度の生産量は、米国農務省(USDA)によると、3月に比べ、単収が減少したものの収穫面積が増加したことから、0.1百万トン上方修正され71.7百万トンの見込み。生産量の品種別内訳は、冬小麦が前月より1.5百万トン上方修正され52.5百万トン、春小麦が1.4百万トン下方修正され19.2百万トンである。

2019/20年度の冬小麦は、欧州ロシアの南部地域で平年より高い気温が続き、生長を再開しており、北部の雪溶けした地域では休眠期から脱しつつある。生産量は、ロシア農業省によれば、前年度より4%増加し7.5~7.8百万トンの見込み。なお、天候が順調であれば8.0百万トンに達する可能性がある。

【貿易情報・その他】2018年7月からの輸出量は29.0百万トンに達した。2018/19年度の輸出量は、国内在庫量の減少から輸出価格が上昇し輸出ペースが落ちているが、37.0百万トン達成できる見込み。

小麦—米国 (冬小麦が全体の7割、春小麦は3割)

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	62.8	47.4	51.3	-	8.3
消費量	31.9	29.4	30.2	▲ 0.1	2.7
うち飼料用	4.4	1.4	2.2	-	56.8
輸出量	28.6	24.5	26.3	▲ 1.0	7.1
輸入量	3.2	4.3	4.0	0.1	▲ 7.7
期末在庫量	32.1	29.9	28.7	1.2	▲ 4.0
期末在庫率	53.1%	55.5%	50.9%	3.1	▲ 4.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	17.75	15.20	16.03	-	5.5
単収(t/ha)	3.54	3.12	3.20	-	2.6

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(8 March 2019)

小麦—ロシア (主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	72.5	85.0	71.7 (71.7)	0.1	▲ 15.6
消費量	40.0	43.0	40.5 (42.4)	-	▲ 5.8
うち飼料用	17.0	20.0	18.0 (18.4)	-	▲ 10.0
輸出量	27.8	41.4	37.0 (35.2)	-	▲ 10.7
輸入量	0.5	0.5	0.5 (0.3)	-	6.4
期末在庫量	10.8	11.9	6.6 (10.1)	0.1	▲ 44.8
期末在庫率	16.0%	14.1%	8.5% (13.0%)	0.1	▲ 5.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	27.00	27.34	26.34 (27.30)	0.14	▲ 3.7
単収(t/ha)	2.69	3.11	2.72 (2.82)	▲ 0.01	▲ 12.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 March 2019)
IGC 「Grain Market Report」(28 March 2019)

< EU >

【生育・生産状況】2018/19年度の生産量は、前月からの改訂はなく137.6百万トンの見込み。

2019/20年度の冬小麦は、3月上旬に乾燥が懸念されていたスペイン、英国、フランス等で降雨に恵まれたものの、例年より高温状態が続いていることから今後の生長には更なる降雨が必要。また、EU全体で例年より高い気温となったことから、英国及びフランスではすでに生長を再開、ドイツ、ポーランドの一部では例年より1月早く休眠期を終えた。

【貿易情報・その他】2019年1月から特にドイツ産及びフランス産は、ロシア産との価格差が狭まり輸出量が増加した。さらに2月からユーロ安により、EUの輸出先であるエジプト、ベトナム等で輸出量が増加。そのため、2018/19年度のEUの輸出量は前月より0.1百万トン上方修正され23.0百万トンとなる見込み。

< カナダ >

【生育・生産状況】2018/19年度の実生産量は、カナダ農務農産食品省(AAFC)の3月報告によると、収穫面積の減少から、2月に比べわずかに下方修正され、31.8百万トンとなる見込み。品種別には、デュラム小麦を除く普通小麦は前月からの改訂はなく26.0百万トン、デュラム小麦がわずかに下方修正され5.8百万トンとなる見込み。

2019/20年度の実生産量は、前年度(31.8百万トン)から4.2%増加し33.1百万トンの見込み。品種別には、デュラム小麦を除く普通小麦が前年度より冬小麦の作付面積が減少するものの、収益性の高い春小麦の面積が増加することから28.0百万トン、デュラム小麦が2013/14年度以来最低の価格に低迷したことから作付面積が減少し5.1百万トン。

【貿易情報・その他】2018/19年度の輸出量は、デュラム小麦を除く普通小麦が豪州、ロシア、EUとの価格差が狭まり7%増加の18.7百万トン、デュラム小麦が主に北西アフリカからの需要が減少したため前年度より7%減少し4.1百万トンの見込み。

小麦—EU (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はEU	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	145.4	151.3	137.6 (137.4)	-	▲ 9.0
消費量	128.0	130.4	124.5 (128.6)	▲ 0.5	▲ 4.5
うち飼料用	56.0	58.0	52.5 (55.0)	▲ 0.5	▲ 9.5
輸 出 量	27.4	23.3	23.0 (20.0)	1.0	▲ 1.2
輸 入 量	5.3	5.8	6.2 (5.6)	▲ 0.3	6.5
期末在庫量	10.7	14.1	10.4 (13.9)	▲ 0.8	▲ 26.2
期末在庫率	6.9%	9.2%	7.1% (9.4%)	▲ 0.6	▲ 2.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	27.23	26.08	25.55 (25.54)	-	▲ 2.0
単収(t/ha)	5.34	5.80	5.39 (5.4)	-	▲ 7.1

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
USDA 「PS&D」(8 March 2019)
EU 「Balance Sheets For Cereals and Oilseeds and Rice」(28 March 2018)

小麦—カナダ (春小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	32.1	30.0	31.8 (31.8)	-	6.1
消費量	10.8	9.4	9.3 (9.0)	-	▲ 1.3
うち飼料用	5.8	4.5	4.3 (4.1)	-	▲ 4.9
輸 出 量	20.2	22.0	24.0 (22.8)	-	9.3
輸 入 量	0.5	0.5	0.5 (0.1)	-	-
期末在庫量	6.9	5.9	4.9 (6.0)	▲ 0.3	▲ 17.7
期末在庫率	22.2%	18.9%	14.6% (18.9%)	▲ 0.8	▲ 4.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	8.98	8.98	9.90 (9.88)	-	10.2
単収(t/ha)	3.58	3.34	3.21 (3.22)	-	▲ 3.9

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 March 2019)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(21 March 2019)

< 豪州 >

【生育・生産状況】2018/19年度の生産量は、豪州農業資源科学局（ABARES）の最終生産高推定となる「Australian crop Report」（2月）によれば、2007/08年度以来最低の17.3百万トンの見込み。

2019/20年度の実生産量は、ABARESによると、作付面積の増加と単収の上昇により、干ばつの被害が大きかった前年度より38.2%増加の23.9百万トンの見込み。

米国農務省(USDA)によれば、クイーンズランド南部とニューサウスウェールズ州で降雨があり作付け前の干ばつへの懸念が薄らいだ。4月半ばから開始される作付けにとって、この降雨は表層の土壌水分に寄与したが、東部の大部分で厳しい干ばつによって減少した土壌水分の回復には至っておらず、更なる降雨が必要な状況である。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2018/19年度の輸出量は前月からの改訂は行われず、10.0百万トンと2007/08年度以来最低となる見込み。また、輸出価格(FOB)は、2月に低下したものの、他の主要輸出国と比較すると依然高い状況である。

小麦－豪州（冬小麦を主に栽培）

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	31.8	21.3	17.3 (17.3)	0.3	▲ 18.8
消費量	7.5	7.5	9.2 (9.0)	0.2	23.0
うち飼料用	4.0	4.0	5.7 (5.6)	0.2	42.5
輸 出 量	22.6	13.9	10.0 (10.0)	-	▲ 27.8
輸 入 量	0.2	0.2	0.2 (0.2)	-	▲ 6.3
期末在庫量	5.7	5.9	4.1 (4.1)	0.1	▲ 29.8
期末在庫率	19.0%	27.5%	21.5% (21.6%)	0.3	▲ 6.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)※	12.19	12.25	10.20 (12.10)	0.20	▲ 16.7
単収(t/ha)	2.61	1.74	1.70 (1.89)	-	▲ 2.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 March 2019)
IGC 「Grain Market Report」(28 March 2019)

小麦－中国（冬小麦を主に栽培）

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	133.3	134.3	131.4 (131.4)	-	▲ 2.2
消費量	119.0	121.0	125.0 (127.8)	-	3.3
うち飼料用	17.0	17.5	20.0 (20.0)	-	14.3
輸 出 量	0.8	1.0	1.2 (1.2)	-	20.0
輸 入 量	4.4	4.0	3.5 (3.9)	-	▲ 12.5
期末在庫量	114.9	131.3	140.0 (121.8)	-	6.7
期末在庫率	96.0%	107.6%	110.9% (94.4%)	-	3.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	24.69	24.51	24.27 (24.27)	-	▲ 1.0
単収(t/ha)	5.40	5.48	5.42 (5.42)	-	▲ 1.1

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 March 2019)
IGC 「Grain Market Report」(28 March 2019)

※一類苗：生育が正常な苗、二類苗：通常の苗よりやや小さい苗
三類苗：病気の苗、弱い苗。

< 中国 >

【生育・生産状況】2018/19年度の実生産量は、中国糧油情報センターによると、前月からの改訂がなく131.4百万トンの見込み。作期別内訳は、冬小麦が124.5百万トン、春小麦が6.9百万トン。

2019/20年度の実生産量は、中国中央气象台によると、主要産地の山西省、河北省では休眠期、山東省、江蘇省、湖北省の一部では活着期、四川省、貴州省等では天候に恵まれ順調に生育し節間伸長期から穂孕み期に入っている。

同气象台の作柄観測によると、中国全土の冬小麦の一、二類苗(※)の比率はそれぞれ21%、77%であり、先月同時期より一類苗の比率が1ポイント上方修正、二類苗が2ポイント下方修正された。

2 とうもろこし

(1) 国際的な需給の概要 (詳細は右表を参照)

<米国農務省 (USDA) の見通し>

2018/19 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

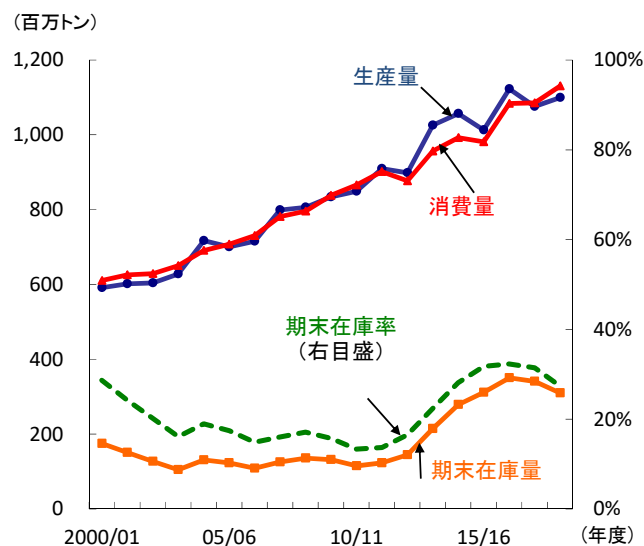
前月に比べ EU、ロシアの収穫面積、単収が上方修正されたため、上方修正された。

消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

前月に比べ、中国の飼料用需要の上方修正等により上方修正された。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

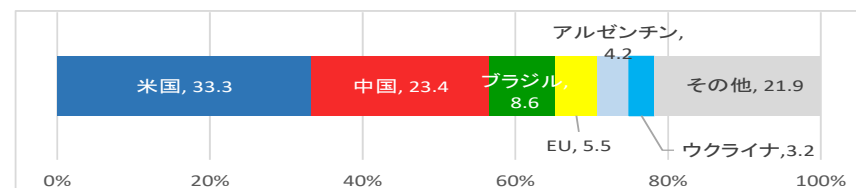


(単位:百万トン)

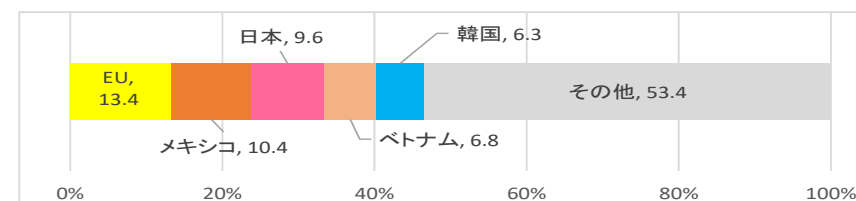
年度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率 (%)
生産量	1,123.3	1,076.2	1,101.2	▲ 1.6	2.3
消費量	1,084.1	1,085.7	1,133.8	▲ 3.1	4.4
うち飼料用	656.1	671.4	703.0	▲ 4.9	4.7
輸出量	160.1	146.6	167.0	▲ 0.4	13.9
期末在庫量	350.6	341.2	308.5	▲ 1.3	▲ 9.6
期末在庫率	32.3%	31.4%	27.2%	▲ 0.2	▲ 4.2

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (8 March 2019)

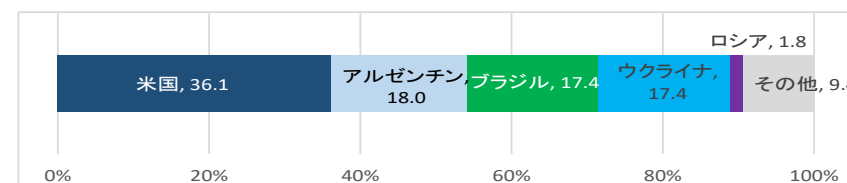
○ 2018/19 年度 世界のとうもろこしの生産量(1,101.2 百万トン) (単位: %)



○ 2018/19 年度 世界のとうもろこしの輸入量(160.8 百万トン)



○ 2018/19 年度 世界のとうもろこしの輸出量(167.0 百万トン)



資料: USDA 「WASDE」 (2019.3.8) をもとに農林水産省にて作成

(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 >

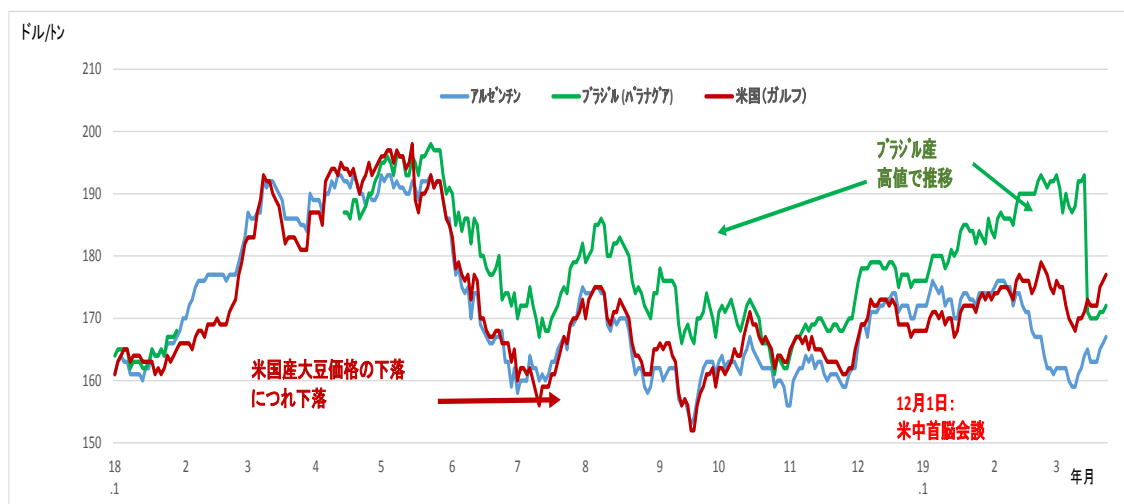
【生育・生産状況】米国農務省（USDA）によると 2018/19 年度の生産量は 366.3 百万トンの見込みで変わらず。

2019/20 年度については、大豆と比べ収益性が良いとみられることから作付面積は増加が予想されている。3 月後半にコーンベルト西部で雪解け水と降雨過多により洪水が発生したが、回復が早ければ作付けへの影響は限定的とみられている。

【需要動向】USDA によれば、毎週のエタノール生産ペースの低下等により、バイオエタノール加工用需要で下方修正され、全体の消費量も下方修正された。

【貿易情報・その他】USDA によれば、とうもろこしの輸出量で、競合するブラジルやアルゼンチンの輸出増等から下方修正された。USDA の輸出検証高によると、2 月単月（332 万トン）では、メキシコ向けが一番多く（100 万トン）、続いて日本（96 万トン）、ペルー、韓国、コロンビア向けとなっており、東アジア、中南米向けが多い傾向となっている。

図：米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格（FOB）の推移



資料：IGC のデータをもとに農林水産省にて作成

とうもろこしー米国

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	384.8	371.1	366.3	-	▲ 1.3
消費量	313.8	314.0	314.7	▲ 0.6	0.2
うち飼料用	138.9	134.7	136.5	-	1.3
エタノール用等	138.0	142.4	141.0	▲ 0.6	▲ 1.0
輸 出 量	58.3	61.9	60.3	▲ 1.9	▲ 2.6
輸 入 量	1.5	0.9	1.0	-	10.9
期末在庫量	58.3	54.4	46.6	2.5	▲ 14.3
期末在庫率	15.7%	14.5%	12.4%	0.8	▲ 2.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	35.11	33.48	33.08	-	▲ 1.2
単収(t/ha)	10.96	11.08	11.07	-	▲ 0.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 March 2019)

とうもろこしーアルゼンチン

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	41.0	32.0	46.0 (53.0)	-	43.8
消費量	11.2	12.4	13.8 (20.2)	-	11.3
うち飼料用	7.5	8.5	9.7 (17.5)	-	14.1
輸 出 量	26.0	20.3	30.0 (30.0)	1.0	47.8
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	5.3	4.6	6.8 (9.1)	▲ 0.3	48.0
期末在庫率	14.2%	14.0%	15.5% (18.0%)	▲ 1.1%	1.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	4.90	5.20	5.50 (6.88)	-	5.8
単収(t/ha)	8.37	6.15	8.36 (7.20)	-	35.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 March 2019)
IGC「Grain Market Report」(28 March 2019)

< ブラジル >

【生育・生産状況】3月現在、夏とうもろこしは、SAFRAS&MERCADO社によれば、3月上旬現在、収穫の進捗率は4割程度で、作柄は良好である。また、大豆収穫後に作付される冬とうもろこしは、同社によれば、マトグロッソ州で作付けは概ね終了した。

ブラジル食料供給公社（Conab）3月報告によると、2018/19年度のとうもろこし（夏冬の合計）の作付面積は、17.1百万ヘクタール（前年度比2.7%増）、生産量は、92.8百万トン（前年度比15%増）の見込みである。うち、夏とうもろこしは、26.2百万トン（前年度比2.2%減）、冬とうもろこしは66.6百万トン（前年度比24%増）である。夏とうもろこしでは、ミナスジェライス、ピアウイ州等の作付面積で下方修正されたものの、冬とうもろこしではマトグロッソ州、マトグロッソドスル州の作付面積で大きく上方修正された。この結果、とうもろこし全体で生産量は上方修正された。

【貿易情報・その他】貿易統計によると、2月の輸出量は175万トンである。1～2月累計579万トンは、前年同期（428万トン）を大きく上回っている。これは、今期、前年度に比べて収穫時期が早かったことから、生産量が増加したことによるものである。主な輸出先は、従来のベトナム、イランに加え台湾向けが増加している。

< 中国 >

【生育・生産状況】中国中央气象台によれば、3月に入り、南部の広西壮族自治区で2019/20年度のとうもろこしの作付けが開始された。4月以降、北部でも開始されるとみられる。

【需給状況】USDAによれば、大麦やソルガムの輸入減によるとうもろこしへの飼料用需要のシフトにより消費量が上方修正された。中国農業農村部の「2019年2月中国農産品需給形勢分析」によると、2018/19年度では消費量が生産量を上回ったが、国家臨時備蓄在庫に支えられ、とうもろこしの需給バランスは余裕がある見通し。2019年に入り、中国国内のとうもろこし産地の卸売平均価格は1,700～1,800元/トンを維持している。

【貿易情報・その他】貿易統計によると、2月の輸入量は、16.5万トン（前年同期10.2万トン）であり、うち9割以上がウクライナ産である。

とうもろこし—ブラジル

（大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが7割を占め、夏とうもろこしは3割）

（単位：百万トン）

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	93.5	82.0	94.5 (93.5)	-	15.2
消費量	60.5	64.5	66.5 (65.1)	-	3.1
うち飼料用	51.0	55.0	56.0 (52.0)	-	1.8
輸 出 量	31.6	25.4	29.0 (29.0)	-	14.2
輸 入 量	0.9	1.0	1.0 (0.5)	-	-
期末在庫量	14.0	7.1	7.1 (6.0)	▲ 0.9	-
期末在庫率	15.2%	7.9%	7.5% (6.4%)	▲ 0.0	▲ 0.5

(参考)

収穫面積(百万ha)	17.60	16.60	17.20 (17.30)	▲ 0.30	3.6
単収(t/ha)	5.60	4.94	5.49 (5.41)	0.09	11.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 March 2019)

IGC「Grain Market Report」(28 March 2019)

とうもろこし—中国

（単位：百万トン）

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	263.6	259.1	257.3 (257.3)	-	▲ 0.7
消費量	255.0	263.0	280.0 (286.6)	3.0	6.5
うち飼料用	185.0	187.0	198.0 (184.0)	3.0	5.9
輸 出 量	0.1	0.0	0.1 (0.1)	-	150.0
輸 入 量	2.5	3.5	5.0 (4.5)	-	44.5
期末在庫量	223.0	222.5	204.8 (195.9)	▲ 3.0	▲ 8.0
期末在庫率	87.4%	84.6%	73.1% (68.3%)	▲ 0.0	▲ 11.5

(参考)

収穫面積(百万ha)	44.18	42.40	42.13 (42.13)	1.00	▲ 0.6
単収(t/ha)	5.97	6.11	6.11 (6.11)	-	-

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 March 2019)

IGC「Grain Market Report」(28 March 2019)

3 米

(1) 国際的な米需給の概要 (詳細は右表を参照)

<米国農務省 (USDA) の見通し>

2018/19 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

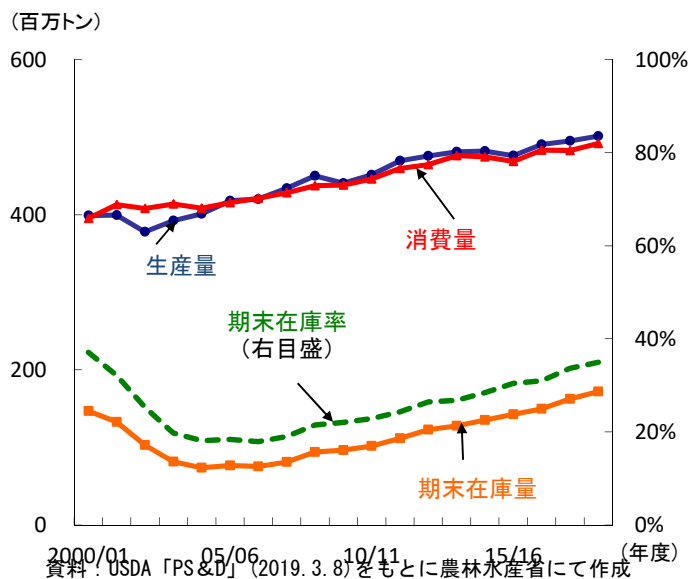
・前月に比べ、インドでの単収・収穫面積の上方修正により上方修正された。

消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・前月に比べ、インドでの消費量の上方修正により上方修正された。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

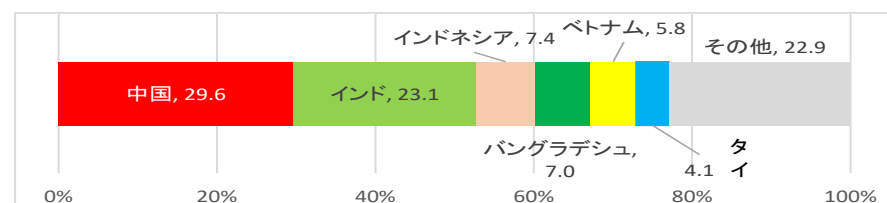
期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↑



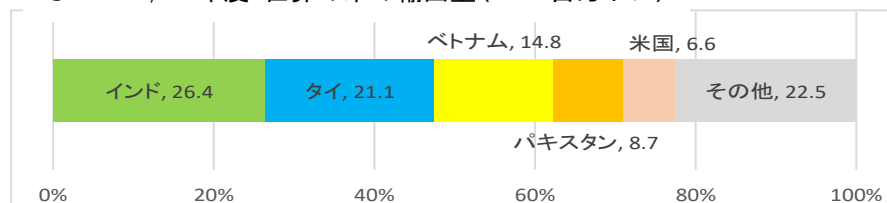
年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)
生産量	490.9	495.4	501.6	5.7	1.3
消費量	483.6	482.7	492.0	1.7	1.9
輸出量	47.2	47.1	47.4	▲ 0.4	0.5
輸入量	41.2	46.9	44.6	▲ 0.6	▲ 4.9
期末在庫量	150.0	162.6	172.2	4.6	5.9
期末在庫率	31.0%	33.7%	35.0%	0.8	1.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」 (8 March 2019)

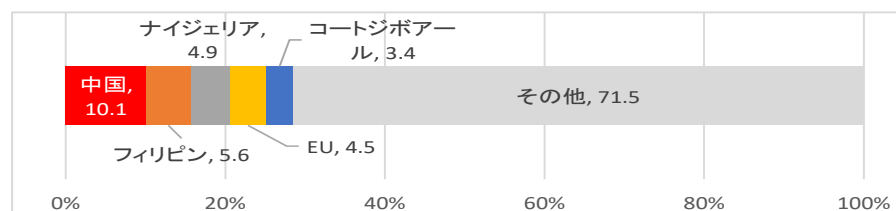
○ 2018/19 年度 世界の米の生産量 (501.6 百万トン) (単位：%)



○ 2018/19 年度 世界の米の輸出量 (47.4 百万トン)



○ 2018/19 年度 世界の米の輸入量 (44.6 百万トン)



(2) 国別の米の需給動向

< 米国 >

主に中・短粒はカリフォルニア、長粒はミシシッピ川沿いで栽培
カリフォルニア州の全米の米生産に占める生産シェアは約2割

【生産動向】USDA(米国農務省)によれば、2018/19年度の生産量は7.1百万トンで前年度比25.8%増加の見通しは変わらず。

【貿易情報・その他】USDAによれば、輸出量で中・短粒種の輸出ペースが落ちていることから下方修正され3.1百万トン、輸入量で中国から米国領プエルトリコ向け輸出の増加から上方修正され、史上最高の0.9百万トンの見込み。

3月上旬の精米価格は、ミシシッピ川流域の長粒種(2等4%砕米混入、ガルフ積み)は、2月より4ドル/トン上昇し525ドル/トン。一方、カリフォルニア産中粒種(1等4%砕米混入 精米工場渡し)は2月と変わらず900ドル/トン。

< インド >

インドでは、雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ(小麦)の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

【生育・生産動向】

USDAによれば、米生産の85%を占める雨季(カリフ)米が降雨に恵まれ、生産量は前月と比べ5.0百万トン大幅に上方修正され、史上最高の116.0百万トンの見通し。

現在、乾季(ラビ)であるが、生育状況は、南部のタミルナード州で収穫期、東部のオリッサ州、アンドラプラデシュ州、アッサム州で栄養成長期を迎えている。

【消費動向】USDAによれば、生産量の上方修正により、消費量、期末在庫量では、それぞれ前月より比べ上方修正され、101.1百万トン、25.0百万トンの見通し。

【貿易情報・その他】12月31日付けの政府報道局プレスによれば、2018年4月～12月のバスマティ米(高級香り米の一種)の輸出量は、2.86百万トンと前年同期(2.91百万トン)を1.5%下回った。米全体では、8.46百万トンと前年度(9.21百万トン)を8.1%下回っている。この結果、米輸出量に占めるバスマティ米の比率は31%から33%へと高まっている。

米-米国

(単位:百万精米トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	7.1	5.7	7.1	-	25.8
消費量	4.2	4.3	4.3	-	0.2
輸出量	3.7	2.8	3.1	▲ 0.07	12.7
輸入量	0.8	0.9	0.9	0.01	8.2
期末在庫量	1.5	0.9	1.6	0.1	69.9
期末在庫率	18.5%	13.2%	21.4%	1.3	8.1

(参考)

収穫面積(百万ha)	1.25	0.96	1.18	-	22.9
単収(もみt/ha)	8.11	8.41	8.62	-	2.5

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 March 2019)

米-インド

(単位:百万精米トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	109.7	112.9	116.0 (115.6)	5.0	2.7
消費量	95.8	98.8	101.1 (101.0)	1.1	2.3
輸出量	11.7	12.0	12.5 (12.2)	-	3.8
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	20.6	22.6	25.0 (25.1)	3.9	10.6
期末在庫率	19.1%	20.4%	22.0% (22.2%)	3.3	1.6

(参考)

収穫面積(百万ha)	43.99	43.79	44.50 (43.40)	0.50	1.6
単収(もみt/ha)	3.74	3.87	3.91 (2.66)	0.13	1.0

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 March 2019)
IGC「Grain Market Report (28 March 2019)」(単収は精米t/ha)

< 中国 >

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

【政策情報・その他】国家食糧備蓄局によると、2018年産米のジャポニカ米の買い上げ数量は2月28日現在、4,046万トンで、前年産より226万トン減少している。

国家発展改革委員会は2月26日、2019年産米の最低買付価格に関して、早期インディカ米(3等)、中晩期インディカ米(同)、ジャポニカ米(同)について、それぞれ昨年と同じ2,400元/トン、2,520元/トン、2,600元/トンとすることを公表した。

【貿易情報・その他】2019年1月の輸入量は28万トンで前年同月比23%減。主要輸入先は、タイ(53%)、パキスタン(25%)、カンボジア(12%)。一方、輸出量は14万トンで、前年同月比1.2%増。主要輸出先は、エジプト(28%)、トルコ(19%)、コートジボアール(17%)。

農業農村部の3月公表の「農産品供需形勢分析月報」(2月分)によれば、早期インディカ、晩期インディカ、ジャポニカ米の卸売価格(精米)は、春節前の価格の小ピークを過ぎたことから、それぞれ3,740元/トン、4,040元/トン、4,180元/トンと前月と比較して下落している。

< ベトナム > **北部で二期作、南部で二期作、三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培**

【生育・生産動向】冬春作の作付けが南部で継続され、北部でも開始された。冬春作の作付は良好な気候条件に恵まれ、例年より早く進展しており、2月中旬時点で、279万ヘクタール(対前年同期比4.7%増)となっている。

【貿易情報・その他】国内価格については、2月には下落していたが、ベトナム国立銀行が支店や民間銀行に対して、米の買入れを促進するための融資を行うよう指示したため、3月には下落が収まった。

2019年2月の輸出価格は、インディカ精米は1月(354ドル/トン)から下落し、335ドル/トン、ジャポニカ精米も1月(515ドル/トン)から下落し、500ドル/トン。

2019年1~2月の輸出数量は83.7万トンと対前年同期(83.2万トン)比で同水準となっているが、精米価格の下落により輸出金額では前年同期比10%減となっている。

米-中国

(単位:百万精米トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予 測 値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	147.8	148.9	148.5 (148.5)	-	▲ 0.3
消 費 量	141.8	142.5	143.8 (144.9)	-	0.9
輸 出 量	0.8	1.4	2.2 (2.4)	-	58.3
輸 入 量	5.3	5.5	4.5 (4.3)	-	▲ 18.2
期末在庫量	98.5	109.0	116.0 (98.5)	-	6.4
期末在庫率	69.1%	75.8%	79.5% (66.9%)	-	3.7

(参考)

収穫面積(百万ha)	30.75	30.75	30.19 (30.19)	-	▲ 1.8
単収(もみt/ha)	6.87	6.92	7.03 (4.92)	-	1.6

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 March 2019)

IGC 「Grain Market Report (28 March 2019)」 (単収は精米t/ha)

米-ベトナム

(単位:百万精米トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予 測 値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	27.4	28.5	29.1 (28.6)	-	2.1
消 費 量	22.0	22.0	22.2 (22.6)	-	0.9
輸 出 量	6.5	6.6	7.0 (6.6)	-	6.2
輸 入 量	0.5	0.4	0.4 (0.4)	-	-
期末在庫量	1.0	1.3	1.5 (3.7)	-	21.6
期末在庫率	3.4%	4.4%	5.2% (12.7%)	-	0.8

(参考)

収穫面積(百万ha)	7.71	7.69	7.76 (7.57)	-	0.9
単収(もみt/ha)	5.68	5.92	5.99 (3.78)	-	1.2

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 March 2019)

IGC 「Grain Market Report (28 March 2019)」 (単収は精米t/ha)

< タイ > **夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカを栽培**

【生育・生産動向】タイ北部では乾季米の作付けが終了し、生育期となっている。

タイ農業協同組合省の2月報告によれば、雨季作は24.22百万トン(粳ベース)、乾季作も、生産量は7.86百万トン、全体で32.08百万トンの見通しは1月から変更なし。

【貿易情報・その他】2019年1月のタイ産米の輸出量は、前年同月(96.7万トン)と比較して、95.2万トンで1.6%減少した。主な輸出先は、フィリピン(16.7万トン)、ベナン(15.4万トン)である。

2月27日時点のタイ産米(碎米5%)の輸出価格は402ドル/トンで、ベトナムやインド、パキスタン産米より1割~2割程度割高なため、フィリピンやインドネシア等の米輸入国は、安価なベトナムやインド、パキスタンからの輸入を増加させるとみられる。

(参考)インドネシアの米の需給動向(主にジャバニカ種を栽培)

・インドネシアの米生産は概ね自給をしており、不足分を輸入。主産地はジャワ島。粒が大きめのジャバニカ種を栽培。

・ 最近の生産量は増加傾向で推移。USDAによれば、2018/19年度は37.3百万精米トンと前年度より増産見通し(2008/09年度以来史上2位)。現地情報によれば、害虫・病害の発生率の低下や高収量品種の栽培の拡大による単収増が増産の要因。

・ 最近の消費量は横ばいで推移。2018/19年度は38.1百万精米トン。ナシゴレン等の主食向けに使用されるが、最近、食生活の変化によりインスタント麺などの小麦製品を多く消費する家庭が増えており、国民1人当たりの米の消費量は減少傾向にあるとみられる。

・ 2018/19年度は増産による国内在庫の積み上がりのため輸入は減少見込み。一方、対外輸出も検討しているとみられる。

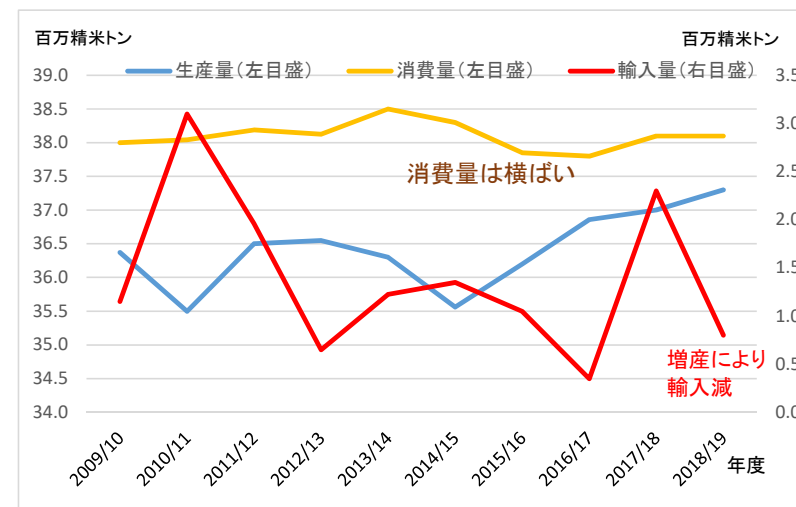
米ータイ

(単位:百万精米トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	19.2	20.4	20.7 (20.4)	-	1.6	
消費量	12.0	10.6	10.5 (10.4)	-	▲ 0.9	
輸出量	11.6	11.1	10.0 (10.3)	-	▲ 9.6	
輸入量	0.3	0.3	0.3 (0.3)	-	-	
期末在庫量	4.2	3.2	3.7 (3.1)	0.0	14.1	
期末在庫率	18.0%	14.8%	17.8% (15.0%)	0.1	3.0	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	10.25	10.68	10.96 (10.50)	-	2.6	
単収(もみt/ha)	2.84	2.89	2.86 (1.94)	-	▲ 1.0	

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 March 2019)
IGC 「Grain Market Report (28 March 2019)」 (単収は精米t/ha)

図 最近のインドネシアの米生産量、消費量、輸入量の推移



資料: USDA 「PS&D」(2019.3.8)をもとに農林水産省にて作成

II 油糧種子

1 大豆

(1)国際的な需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2018/19年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

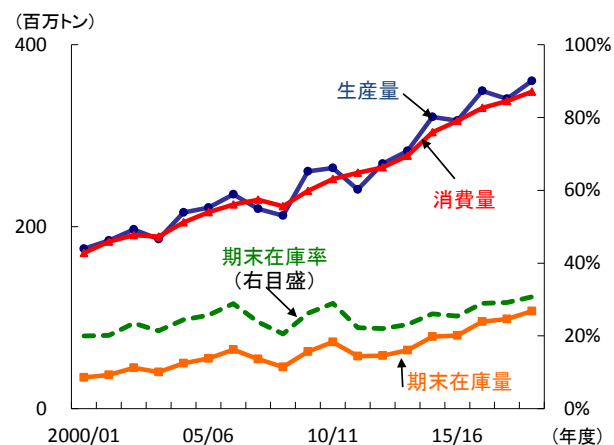
・前月に比べ、ブラジルの単収、パラグアイの収穫面積が下方修正されたため、下方修正された。

消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・前月に比べ、アルゼンチン、中国の搾油需要の下方修正により、下方修正された。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

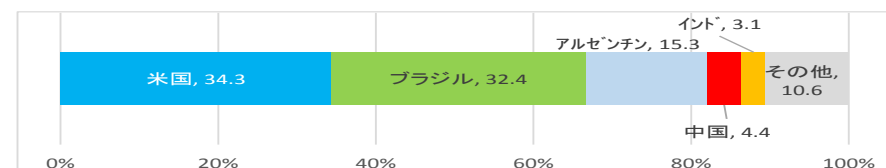


(単位:百万トン)

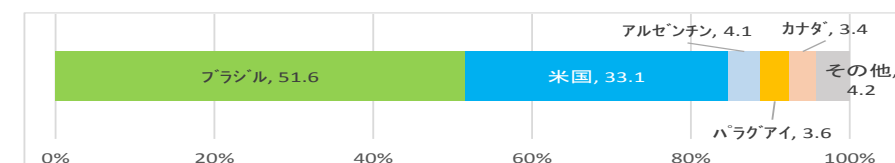
年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	349.3	340.5	360.1	▲ 0.9	5.8
消費量	330.6	338.1	348.5	▲ 0.9	3.1
うち搾油用	287.3	295.1	303.9	▲ 0.9	3.0
輸出量	147.5	153.0	154.2	▲ 0.2	0.8
期末在庫量	95.8	98.6	107.2	0.5	8.7
期末在庫率	29.0%	29.2%	30.8%	0.2	1.6

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (8 March 2019)

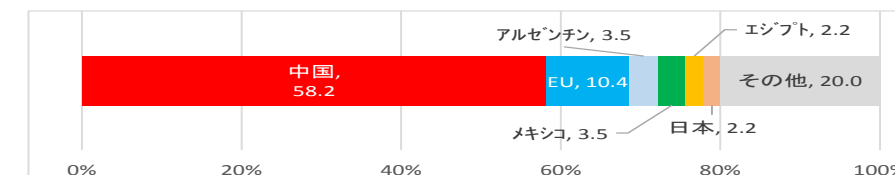
○ 2018/19年度の世界の大豆の生産量(361.1百万トン) (単位: %)



○ 2018/19年度の世界の大豆の輸出量(154.2百万トン)



○ 2018/19年度の世界の大豆の輸入量(151.4百万トン)



資料: USDA 「PS&D」 (2019. 3. 8) をもとに農林水産省で作成。

大豆－米国

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	116.9	120.1	123.7	-	3.0
消費量	55.7	59.0	60.6	0.3	2.7
うち搾油用	51.7	55.9	57.2	0.3	2.2
輸 出 量	59.0	58.0	51.0	-	▲ 11.9
輸 入 量	0.6	0.6	0.5	-	▲ 8.5
期末在庫量	8.2	11.9	24.5	▲ 0.3	105.5
期末在庫率	7.2%	10.2%	21.9%	-0.3%	11.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	33.47	36.24	35.66	-	▲ 1.6
単収(t/ha)	3.49	3.31	3.47	-	4.8

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 March 2019)

(2) 国別の大豆の需給動向

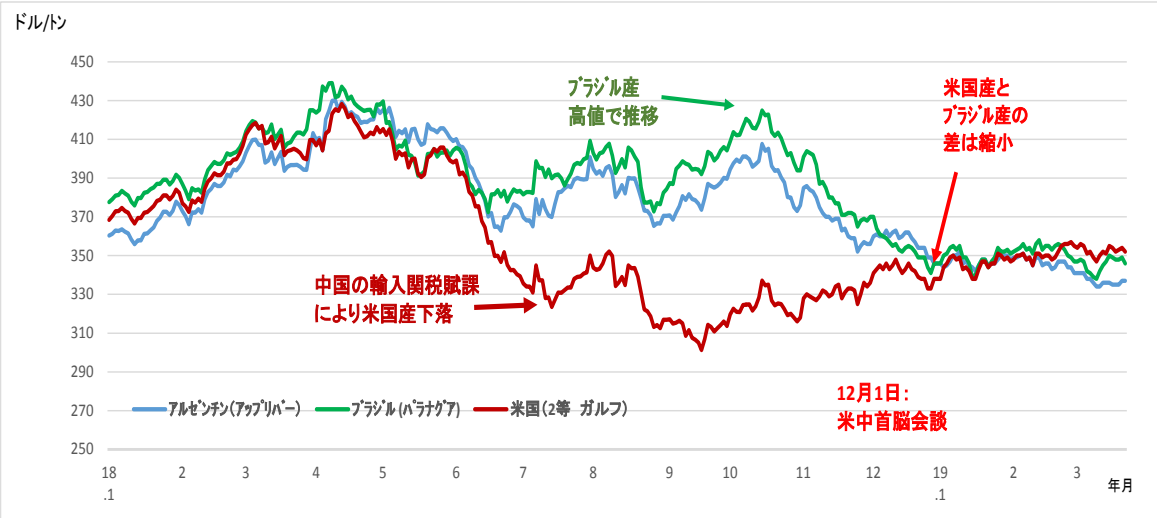
< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省（USDA）によると、生産量は前月と同じく 123.7 百万トンの見通し。

【需要動向】搾油量は、搾油マージンが良好であり、大豆粕需要も高いことから、前月と比べ 0.3 百万トン上方修正された。2018 年 9 月から 2019 年 1 月までの搾油ペースは前年同期を 6%上回っている。

【貿易情報・その他】輸出力は前月と同じ 51.0 百万トンの見通しである。USDA によると、とりわけ EU 向けが増加しており、過去 12 ヶ月間(2018 年 3 月から 2019 年 2.0 月未まで)の輸出力は 9 百万トンを超えており、前年同期の約 2 倍となっている。

図：米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格（FOB）の推移



資料：IGC のデータをもとに農林水産省にて作成

大豆—ブラジル

(単位:百万トン)

< ブラジル >

【生育・生産状況】ブラジル国家食料供給公社(Conab)は、マツグロツドスル州、ミナスジェライス州等の単収が乾燥のため下方修正されたことから、2018/19年度の生産見通しを前月の115.3百万トンから113.5百万トンへと下方修正した。

【需要動向】Conabによると、2018/19年の生産量が下方修正されたことから、輸出量が下方修正され、70.0百万トン。供給量(期初在庫+生産量+輸入量)は114.6百万トン、需要量(消費量+輸出量)は114.0百万トンである。

【貿易情報・その他】2019年2月の輸出量(6.1百万トン)の82%が中国向けであった。その他、スペイン、オランダ等のヨーロッパ向けにも輸出されている。

2月単月の数字を例年と比べると、2019年2月の輸出量は格段に多い。これは、収穫が早く終わり、輸出時期が早まったことと、昨年から引き続いている中国向け大豆輸出が、好調であるためである。

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19			
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	114.6	120.8	116.5 (115.0)	▲ 0.5	▲ 3.6	
消費量	43.1	46.5	45.1 (…)	-	▲ 3.1	
うち搾油用	40.4	44.5	42.7 (43.2)	-	▲ 4.1	
輸 出 量	63.1	76.2	79.5 (69.7)	-	4.4	
輸 入 量	0.3	0.2	0.3 (0.5)	-	38.9	
期末在庫量	33.2	31.5	23.7 (1.2)	▲ 0.5	▲ 24.7	
期末在庫率	31.3%	25.7%	19.1% (…)	▲ 0.4	▲ 6.7	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	33.90	35.15	36.10 (35.82)	-	2.7	
単収(t/ha)	3.38	3.44	3.23 (3.21)	▲ 0.01	▲ 6.1	

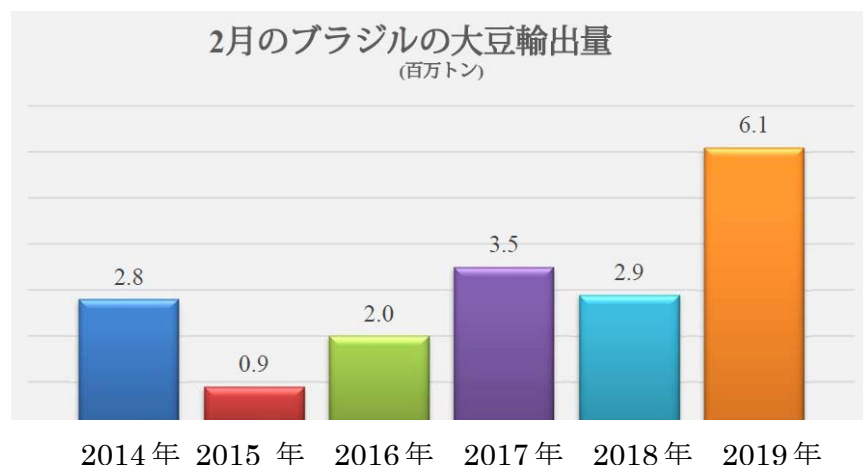
資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(8 March 2019)
OIL WORLD 「OIL WORLD Monthly」(22 March 2019)

ブラジルのクロープカレンダー (2018/19年度) (中部から南部)

2018年は、例年より早い9月に作付けを行い、2019年2月には収穫が終了した。

2018/19年度	2018年												2019年									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
夏とうもろこし	マツグロツドスル州等 作付 5.02(百万ha)												収穫 26.21 (百万t)									→ 収穫夏冬計 92.81
冬とうもろこし	マツグロツドスル州、パラナ州等 作付面積夏冬計 16.65												作付 12.05									↑ 収穫 66.60
大豆	作付 35.82												↑ 早熟種大豆収穫後冬とうもろこし播種 収穫 113.5									

資料: CONAB 2019年3月



資料: USDA 「Oilseeds: World Markets and Trade」 March 2019

大豆－カナダ

< カナダ >

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省（AAFC）によると、2018/19年度の生産量見通しは前月と同じく7.3百万トンである。

【貿易情報・その他】輸出量については、AAFCによると、米国ドルに対するカナダドル安に支えられ、前年（5.4百万トン）を上回る5.5百万トンの見込みである。

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	6.6	7.7	7.3 (7.3)	-	▲ 5.4
消費量	2.5	2.9	2.7 (2.4)	0.1	▲ 7.8
うち搾油用	1.9	1.9	2.0 (・・・)	-	3.3
輸 出 量	4.6	4.9	5.3 (5.5)	-	7.6
輸 入 量	0.5	0.5	0.7 (0.7)	0.1	43.7
期末在庫量	0.3	0.6	0.6 (0.6)	0.1	0.8
期末在庫率	3.9%	8.1%	8.0% (7.0%)	0.6	▲ 0.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.23	2.94	2.55 (2.54)	-	▲ 13.3
単収(t/ha)	2.96	2.63	2.86 (2.86)	-	8.7

資料：USDA「Oilseeds: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(8 March 2019)
AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(21 March 2019)

< アルゼンチン >

【生育・生産状況】土壌水分が生育に適した状況であるため、生育は良好であったが、南部で3月に霜が降り、収穫に、一部影響が出ている。ブエノスアイレス穀物取引所の3月28日付け週報によると、2018/19年度の収穫進捗率は1.6%と前年同期を7.2ポイント下回っている。生産量は53.0百万トンの見込みである。

【貿易情報・その他】前年度は、干ばつにより減産となったことから、国内需要を満たすため、輸出量が減少し、輸入量が増加している。2018年累計では、輸出4.0百万トン、輸入6.4百万トンとなった。2019年1月の輸出は0.1百万トンであり、ほとんどは中国向けである。同じく1月の輸入は0.7百万トンで、米国、パラグアイからの輸入である。

なお、アルゼンチン国内で搾油した後、大豆油はインド、ペルー、エジプト等、大豆粕はベトナム、インドネシア等に輸出されている。

(単位:百万トン)

大豆－アルゼンチン

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	55.0	37.8	55.0 (52.5)	-	45.5
消費量	49.5	43.1	49.2 (・・・)	▲ 0.2	14.1
うち搾油用	43.3	36.9	43.0 (40.5)	▲ 0.2	16.4
輸 出 量	7.0	2.1	6.3 (9.8)	-	198.6
輸 入 量	1.7	5.1	5.4 (3.1)	-	5.9
期末在庫量	27.3	24.9	29.8 (6.0)	0.2	19.5
期末在庫率	48.3%	55.0%	53.6% (・・・)	0.01	▲ 1.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	17.34	16.30	17.50 (17.10)	-	7.4
単収(t/ha)	3.17	2.32	3.14 (3.07)	-	35.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(8 March 2019)
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(22 March 2019)

< 中国 >

【生産・生育状況】3月6日付けの中国糧油情報センターによれば、2018/19年度の生産量は、16.0百万トンである。主産地である黒竜江省では31.5万トンの減産となったが、その他の省では、増産となったため、前年と比べ、0.75百万トン増加である。

【需給動向】昨年11月以降、東北部産の新穀大豆が市場に流通し始め、供給量が増加し、その傾向が続いており、中国農業農村部によると、国内価格は低調である。そのため、中国国家糧食局および物資備蓄局の情報によると、昨年10月から今年2月まで、全国7主要産地で2.64百万トン（累計）の公的な買付けが行われた。

【貿易情報・その他】貿易統計では、2月の輸入量は4.46百万トンと前年同月と比べ0.97百万トン減少した。うち、米国産は0.9百万トン、ブラジル産は1.9百万トンとなっている。（前年同月は、それぞれ3.4百万トン、1.8百万トン）

昨年末に、米国産大豆の輸入が再開され、中国における通関が始まったことから、2019年1月（米国産は0.14万トン）と比べ増加している。

大豆－中国

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	13.6	15.2	15.9 (14.2)	-	4.6
消費量	103.5	106.3	105.1 (…)	▲ 1.0	▲ 1.1
うち搾油用	88.0	90.0	88.0 (84.5)	▲ 1.0	▲ 2.2
輸 出 量	0.11	0.13	0.10 (…)	-	▲ 23.1
輸 入 量	93.5	94.1	88.0 (87.2)	-	▲ 6.5
期末在庫量	20.7	23.5	22.2 (…)	1.0	▲ 5.5
期末在庫率	19.9%	22.1%	21.1% (…)	1.1	▲ 1.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.60	8.25	8.40 (7.10)	-	1.8
単収(t/ha)	1.80	1.84	1.81 (2.00)	-	▲ 1.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 March 2019)
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(22 March 2019)

(参考)本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2018 / 19年度)

	小麦	とうもろこし	米	大豆	なたね
米国	18年6月～19年5月	18年9月～19年8月	18年8月～19年7月	18年9月～19年8月	
カナダ	18年8月～19年7月			18年8月～19年7月	18年8月～19年7月
豪州	18年10月～19年9月		19年3月～20年2月		
EU	18年7月～19年6月				
中国	18年7月～19年6月	18年10月～19年9月	18年7月～19年6月	18年10月～19年9月	
ロシア	18年7月～19年6月				
ブラジル		19年3月～20年2月		18年10月～19年9月	
アルゼンチン		19年3月～20年2月		18年10月～19年9月	
タイ			19年1月～12月		
インド	18年4月～19年3月	18年11月～19年10月	18年10月～19年9月		
ベトナム	18年7月～19年6月		19年1月～12月		

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。

例えば、2018/19年度は、米国の小麦では2018年6月～2019年5月、ブラジルのとうもろこしでは2019年3月～2020年2月です。

なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads?tabName=default>

【利用上の注意】

海外食料需給レポート (Monthly Report) は、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関 (各国政府機関、FAO、IGC 等) の公表資料、Oil World 等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

海外食料需給レポート (Monthly Report) で使用している統計数値は、主に米国農務省が 2019 年 3 月下旬までに 発表した情報を引用しています。

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<http://usda.mannlib.cornell.edu/MannUsda/viewDocumentInfo.do?documentID=1487>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<http://usda.mannlib.cornell.edu/MannUsda/viewDocumentInfo.do?documentID=1490>

「World Agricultural Production」

<http://usda.mannlib.cornell.edu/MannUsda/viewDocumentInfo.do?documentID=1860>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されますので留意してください。

資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。

資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場 (平成 30 年 5 月中において適用される) 等の換算レートを用いています。

市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。

なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads?tabName=default>

期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。

本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「海外食料需給レポート（Monthly Report）」）を併記願います。

○ 本文中の略称については以下の通りです。

FAO	国連食糧農業機関
IGC	国際穀物理事会
USDA	米国農務省
AAFC	カナダ農務農産食品省
ABARES	豪州農業資源経済科学局
CONAB	ブラジル食料供給公社

なお、生産見通し等の予測は、各国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

本レポートの電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 海外食料需給レポート

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

連絡先	農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室
	TEL：03-3502-8111(内線3805)
	FAX：03-6744-2396